



学力の定着をめざして 「基礎・基本」定着状況調査

教育指導課指導係 ☎0824-73-1184

「基礎・基本」定着状況調査は、県教育委員会が子どもたちの確かな学力の定着に向けて、県内すべての公立小・中学校において平成14年度から実施され、今年で5年目を迎えました。本市においては、小学校5年生329人が国語科と算数科、中学校2年生346人が国語科・数学科・英語科の調査に参加しました。

「基礎・基本」 定着状況調査の趣旨

この調査は、調査結果を基に各学校が自校の課題を明確にし、指導内容や指導方法の改善を図るために行われています。
各教諭は、児童・生徒の※**通過率**を授業の指導目標あるいは達成目標と比較して、児童・生徒がどの程度達成したかを確認し、明らかになった課題については綿密な改善計画を立て、庄原市児童・生徒学力向上検討委員会で慎重に検討しながら、2学期以降の指導を充実させるよう取り組みを進めています。
※**通過率** 正答者数を調査対象者数で割った百分率

各教科の通過率と分析

中学校 国語科

(単位%)

	教科全体	聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
庄原市	81.7	81.0	87.6	73.3	84.6
広島県	82.1	81.5	85.1	73.2	86.3

教科全体の通過率は8割を超え、基礎・基本はおおむね定着していると考えられます。
しかし、領域別に見ると、「読むこと」の領域の通過率は8割を切っており、県全体の傾向と同じように読解力について課題があります。
昨年の調査結果と同様に読むことの領域の中でも特に、文章の展開に即して内容を正確に読み取れ

るかをみる問題の通過率が低いということが明らかになりました。各学校では文章の展開に即した読み取りの指導に力を入れていますが、まだ十分に改善できたとはいえない状況です。
文章の内容を理解する上で手がかりになることばや、接続詞や副詞に着目させながら読み取らせる指導を一層充実させていきます。

中学校 数学科

(単位%)

	教科全体	数と計算	図形	数量関係
庄原市	71.0	74.7	72.2	59.5
広島県	71.4	75.7	71.4	60.0

教科全体の通過率は7割を越え、各領域の通過率も県平均とほぼ同じであることから、基礎・基本はおおむね定着していると考えられます。
領域別にみると、「数量関係」の領域の通過率が、ほぼ6割であり、数量の関係をグラフに表したり、グラフから考察したりすることができるかをみる問題に課題があります。

具体的な場面の中の数量の関係をグラフで表し、規則性を発見させるなどの指導が必要です。
また、問題別にみると、一次方程式をつくることのできるかをみる問題に課題があります。ことばの式や図を用いて問題場面から数量関係をとらえさせるとともに、方程式を利用することの有用性に気付かせる指導を行っていきます。

中学校 英語科

(単位%)

	教科全体	聞くこと	書くこと	読むこと	実技
庄原市	77.0	81.3	59.9	79.4	84.5
広島県	76.3	79.5	60.9	79.7	81.4

教科全体の通過率は県平均を上回り、基本的な学習の力が定着していると考えられます。
領域別では「聞くこと」「実技」が県平均を上回っており、これは外国人英語指導助手を活用した会話などの表現活動に取り組んだ成果であり、今後もさらに充実させる必要があります。
しかし、「読むこと」「書くこと」についてはわずか

に県平均を下回りました。「読むこと」では内容を考えた音読の実技、「書くこと」ではつながりのある英文を書くことなどに課題が見られます。こうした点をふまえ、プリントを使ったパターン練習や、テーマを絞った作文練習などを通じて、相手の考え方や気持ちを読みとり伝える力を充実させる指導を行っていきます。

学校へ行こう週間

11月1日(水)
～11月7日(火)



小学校 国語科

(単位%)

	教科全体	聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
庄原市	80.5	81.1	85.5	75.3	82.2
広島県	78.0	74.4	80.8	75.7	80.8

教科全体の通過率は8割を超え、基礎・基本はおおむね定着していると考えられます。
しかし、領域別に細かく見ると、「読むこと」の領域の通過率は8割を切っており、県全体の平均もわずかに下回りました。課題は、段落相互の関係を考えて文章を正しく読み取ることができること、文相互の関係を考えて文章を正しく読み取ることができることの2点です。出題は、「説明文」と呼ばれ、筆者が事実や意見を織り交ぜながら伝えたいことを

論理的にまとめている文章の読み取りです。
この2点に課題があるということは、文章のどの部分に事実が述べられていて、どの部分に意見が述べられているかが十分に区別できず、要旨をつかむ読みができていないということになります。
今後の指導の改善としては、話すこと・聞くことの活動と関連を図って段落意識を育てると共に、接続詞や副詞などの使い方を定着させる指導を行っていきます。

小学校 算数科

(単位%)

	教科全体	数と計算	量と測定	図形	数量関係
庄原市	83.7	87.1	78.0	85.6	83.2
広島県	80.2	83.9	74.1	78.5	82.1

教科全体の通過率は8割を越え、各領域の通過率も県平均を上回っていることから、基礎・基本はかなり定着していると考えられます。
領域別にみると、「量と測定」の領域の通過率は県平均を上回っていますが、8割に届いておらず、特に水の量を比較する方法を考えることができるかをみる問題に課題があります。
水の量を体験的な活動を通して取り扱い、量を比

べる方法や数値で表すよさに気付かせる指導が必要です。
また、問題別にみると、数量の関係を式に表すことのできるかをみる問題に課題があります。買い物などの場面の中で、数量の関係を図に表したり、おはじきなど具体物を操作したりする活動を通して、式の中の数が何を表しているのかを考えさせる指導を行っていきます。



情報交流や 研修で指導力の 向上を目指す

英語部会 会長
野曾原 美紀
(高野中学校校長)

基礎基本定着状況調査は、毎年中学校2年生を対象に行い、同じ生徒を対象にしていないので、昨年との単純な比較はできません。また、英語という教科は小手先

でこうしたからすぐこう変わるというものではないので、日頃の積上げが不可欠です。単語力をつけ、聞く、読む、話す、書くの総合的な力をつけるよう取り組みを進めていきます。

英語の知識だけでなく学習環境づくりも重要で、生活面との関連や学習集団をいかに形成するかも大きな学力向上の要素となります。基礎・基本定着状況調査結果を分析する中で、授業改善や学習環境の課題、教員の研修を含め幅広く、確実に取り組む必要があります。

各校独自の取り組みもありますが、英語部会を基盤に情報交流を行い、効果的な事例は市内全中学校が連携して取り組んだり、研修の機会を確保したりして、教員の意欲や指導力の向上を目指していきます。



学力向上について 聞く

庄原市児童・生徒学力向上
検討委員会 会長
武田 信和
(小奴可中学校校長)

この検討委員会は、庄原市内の児童生徒の学力向上を図るため、調査結果を基に課題を明らかにし、今後の授業改善に生かすため研修を重ねています。会長の武田信和校長に、今回の調査結果について聞きました。

—今回の調査結果についての感想は

小学校については、昨年に引き続き基礎基本が定着していると思います。この学力を中学校に引き継ぐことが大切です。また、中学校においても概ね県平均で基礎基本が定着していると思います。しかし、県平均であればよいというものではなく、個々の改善すべき点に取り組まなければいけません。

—調査結果をどのように生かしますか

調査結果については、各学校や検討委員会の部会ごとに、分析・協議を行いました。今回明らかになった課題を解決するため、各学校では「指導方法の改善計画」と「指導改善のための実施スケジュール」の見直しを行っています。この計画によって授業を改善し、2月

に予定している市独自の学力調査で、再度検証していきたいと思っています。これを私たちの間では、マネジメントサイクルと呼んでいますが、PLAN(計画)・DO(実施)・CHECK(評価)・ACTION(改善)という行程で取り組んでいきます。

—家庭での取り組みは

家庭学習の手引きなどを子どもたちに渡し、日常的に行う家庭学習と試験前に行う家庭学習の仕方について指導しています。また、学校によってはノーテレビデーを呼びかけるなど、家族の皆さんへ勉強場所の確保や雰囲気づくりなど家庭学習習慣づくりの協力をお願いしています。

—今後の課題は

小学校・中学校連携の充実です。小学校で習ったことも何年か経つと忘れていくことがあります。小学校での学習を中学校で反復するなど、繰り返し行うことが大切です。現在、小学校・中学校連携では、乗り入れ授業といって中学校の教諭が小学校で授業を行うなどの取り組みを行っています。小学校での課題を中学校の教諭が把握し、9年間を通して学力の定着を図ることを目指します。

また、学校は基礎学力の定着だけでなく、豊かな心や健やかな体を育むことも大切です。県の教育施策の重点でもある※「ことばの教育」や※「キャリア教育」を推進しながら「『知・徳・体』の基礎・基本の徹底」を実現していきます。

※ことばの教育

「聞く」「読む」「話す」「書く」といった基本的な技能や、「ことば」を通して筋道を立てて論理的に考えるといった思考力などを身に付けることをねらいとしている。

※キャリア教育

勤労観、職業観を育てる教育。児童生徒一人ひとりのキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる。



中学校英語 通過率アップの 取り組みに迫る

中学校英語通過率 (単位%)

	平成17年	平成18年
庄原市	74.0	77.0
広島県	77.8	76.3



英語授業で外国人英語指導助手が発音指導

授業研究のススメ

市内全8校の英語教諭12人で英語部会を組織し、基礎基本定着状況調査の結果を分析し、課題を見出し、各校が連携して研修、授業改善などを行っています。

昨年度から、英語教員の研修費を予算化し、市内の学校に指導力の優れた外部講師やエキスパート教員を招き、授業の進め方、効果的な教材、外国人英語指導助手の効果的な活用などをテーマに授業研究をしています。また、市外の中学校を訪問して、エキスパート教員の授業を参観し、よりよい指導方法を学習し、授業に取り入れています。

課題解決に向けた授業改善(各学校の取り組み)

- 効果的なワークシート集を作成し、各校に配布し、よりよい教材を市内で共有。
- 一人ひとりの生徒に目標の達成度や自分の課題はどこか明確にわかるように、英語カルテの作成。
- 個々の習熟度に応じたメニューの工夫。
- 単語力の定着を図るため、校内単語検定の実施。
- 休み明けテスト、授業始めの基礎・基本定着に向けた復習やホームルームでのドリル学習。
- 補修など学力課題生徒へのきめ細かい指導。
- 英語検定への挑戦。
- 外国人英語指導助手の効果的な活用。

英語の勉強が好き、県平均を上回る

県が実施した教科の学習に関する調査によると、英語の勉強が好き、英語の授業が楽しみ、英語の授業がよく分かったと応えた生徒が県平均を大きく上回りました。本市では7人の外国人英語指導助手が各地域で中学校や小学校で授業を行っています。明るく指導力のある外国人と身近に接することで、英語に対する抵抗がなくなり、英語学習の意欲を向上させています。また、各地域の外国人英語指導助手を1カ所に招き、イングリッシュデーを行うなど、一日中英語を話し、外国のゲームや料理、スポーツなど外国文化に親しむ取り組みも行っています。



高野中で行われたイングリッシュデー

英語部会がエキスパート教員を訪問し研修会